

# 未来への教訓

復興！ 大津波の記憶を風化させない

平成27年(2015年) 10月の出来事  
～ 地元報道より～

◇南三陸町内の国道2路線が一部供用開始となった。志津川地区は五日町から新井田間の国道45号の840mが1日に開通した。戸倉地区は県が整備する国道398号の折立から戸倉団地までの900mが2日に開通となった。

◆気仙沼市は震災後5年間で最高の税収となり、以前の「89.9%」に達した。個人の所得が上がったためと税務課では分析している。

◆気仙沼市本吉町小泉の「シーサイドホテル」の解体が完了した。今後は観光の南三陸の目玉としての「小泉海水浴場」の再開を目指す。

◇南三陸町では指定避難所の志小・志中・歌中の各体育館を避難者が「直接開錠」できるシステムを県内で初めて導入した。管理人が不在でも「専用ボックス」から自動で鍵が取り出せる。

◆気仙沼市魚市場を約107億円で大成建設と小野良組のJVが落札した。完成は29年3月を予定している。

◇南三陸町の志津川・歌津の商店街の再建にあたり、2日に国が「まちなか再建計画」を認定した。29年3月の開業に向けて大きな前進となった。

◆気仙沼市の観光に取り組む「リアス観光創造プラットホーム」が水産業の復興に貢献したとして、観光庁長官から表彰を受賞した。

◇南三陸町では「広域避難計画」を策定して初めて、原発事故を想定した訓練をおこなった。

◇今季のサンマ漁の分析によると、不漁の上にサイズも小さいとダブルパンチに泣いた。郵便局の「サンマパック」もサンマを確保できず、期間途中で終了となった。

◆サンマの不漁の中で気仙沼市の「目黒のさんま祭」が節目の20年を迎えた。0泊3日でバス3台でのスタッフの活動は厳しいが充実していると言う。来年は実行委員会での単独開催となるが、30年40年と続けたいと話す。

◇今年も「南三陸町福祉まつり」が総合体育館アリーナで、20の団体が参加して4日開催された。福祉ブースが並ぶ中で、職員による「認知症の対応」として寸劇も披露された。また、志中生徒による募金活動がおこなわれた。

◆今年の気仙沼市大川でのサケ漁は5日から始まり、初日は上々で200匹の漁のスタートとなった。◇志津川中でオペラ歌手の中鉢聡さんが「東北希望コンサート」を5日開催し、第9の合唱で生徒たちは本格的なオペラに触れた。

◆気仙沼市では国保の加入者が減少し、医療費の増加で市財源が一層厳しくなっている。理由には、震災復興により社会保険への加入移行が原因の一つに上げられる。市の人口は66,929人(-62)世帯数は26,219戸(+13)と9月現在の数となり、市民の減少と市への新しい流入が、その数に表われている。

◇南三陸町・気仙沼市の任期付き職員の応募が低調だ。両町で17人の募集数に対して1人しかいない。行政の厳しい被災地復興の現実がある。

◇南三陸町のさんさん商店街隣の、UR都市機構の「復興情報センター」の入館者が1万人に達した。復興の進捗が1目でわかると来館者には好評を得ている。(開館は昨年3月)

◆サンマが台風の影響で品薄となり、「キ」3,300円に高騰した。

◇南三陸町は健康増進・食育推進計画を、これまでのコンサルタント委託から、住民主導への計画の策定を図る事とした。

◆第53回本吉地方弁論大会で、最優秀賞に伊藤さん(新月3年)と優秀賞の熊谷さん(階上3年)が県大会へ進み、11月に志津川中学校で開催される。

◆気仙沼市は税金の滞納額のうち1億円を不能欠損額として徴収ができないと消滅した。今後は未納金の徴収対策が急務。

◇本吉地方の危険業務従事者として、錦部照夫

さん(65・志津川深田)が瑞宝双光章を受章した。長年にわたり火災予防活動に尽力した。元広域消防指令長として、気仙沼・本吉地方の住民の火災防災に取り組んできた。

◇南三陸町入谷地区に12月6日にオープンを予定しているビジネスホテル「アイルーム」の建設が現在進んでいる。1泊6,200円～で、70室を提供する。

◆イングランドで開催されている「ラグビーワールドカップ」の1回戦の南アフリカと対戦した日本チームは歴史的な勝利となり、リーグ3勝を上げたが5チーム中3位に終わり決勝リーグには進めなかった。チームの一員として気仙沼市出身の島山健介選手(30・サントリー所属)は、全試合の出場で日本チームの勝利に貢献した。

◆気仙沼魚市場のサケの水揚げが、一気に9千500本も上がった(13日)。大川の遡上も順調で採卵も良好。定置網での浜値はメスがキ684円でオスはキ359円だった。うち南三陸は2,700匹にもものぼった。

◇JA南三陸の米の集荷がピークを迎え、管内の一等米の比率は8割だった。

◆気仙沼市の災害公営住宅の空きが189戸にのぼった。12月にも入居者追加再募集をする予定だ。

◇志津川小森の「シロサケふ化場」が、19日落成式が開催される。課題として卵の確保が上げられ、被災前より200万匹多い500万匹を育成する。昨年のサケ水揚げは1,847トンで金額は8億3840万円で、水揚げ量は市場全体の2割で金額は約4割を占めている。稚魚の放流は1千万匹と予定している。

◇南三陸町の事業予算として今回は前回よりも約11億に比べ、43億増の54億8400万円とした。内容は志津川地区の中央区と東区の災害公営整備事業に約49億円と、復興祈念公園関係に約4億円をあてる予定としている。

◇歌津泊浜荷さばき施設の建設が進んでいる。総額1,200万円のうち地元契約金が200万円、NPO「現役ネット」と福岡市ライオンズクラブから1千万円の支援金を施設復旧にあてる。

◆大震災後に初めて開催された「秋刀杯気仙沼剣道大会」(11日)で、歌津道合剣道の小学生低学年と中学生男子が3位に入った。また、唐桑町剣道会Aが男女共3位となった。気仙沼・本吉地方でも小中の剣道スポ少の団員の減少で、今回は3人制のチーム編成となった。

◎宮城県議会議員選挙が16日告示となり、復興の決意を訴える第一声が気仙沼・本吉地方であった。気仙沼出身の5名が立候補したもの、南三陸町からの立候補はなく、気仙沼市の現職の内海氏も出馬しなかった。

◇南三陸警察署では、孤独死や犯罪から高齢者を見守る「よりそい隊」を結成した。署員や安全指導員40名で組織する。

◇新石井国土交通大臣、初の気仙沼市・南三陸町を訪問。復興加速に全力をと話す。

◇南三陸町バイオマス事業拠点「南三陸BIO(ビオ)」の施設が完成し、16日に関係者80人が集まり落成式典をおこなった。施設を運営する「アミタ」の熊野社長は「森・里・海・街・人と自然がつながる豊かなまちづくりに貢献できる施設にしたい」と語った。

◇南三陸町歌津地区の「交通死亡事故ゼロ500日」にあたり南三陸署から感謝状が贈られた。

◇「南三陸応援団」の4月の結成から半年で登録が1,000人を超えた。関東圏が半数を数え、ボランティアから観光交流を目的に結成した。17日は神戸市で団員限定のイベントも開催され、再来町による訪問に手応えを感じている。

◇三陸道「登米志津川道路」(16.1k)の開通が年度内から新年度にずれ込む事が分かった。理由は9月の豪雨で法面の亀裂や、形状の変異が見られるためという。

◆気仙沼保健所管内において、飼い犬に咬まれる事故が増えている。半年足らずで4件発生し、昨年の5件にあと1件とせまった。咬傷事故で2週間入院するケガも発生している。

◇南三陸町の新たな市街地形成のまちびらきエリア(3.7ha)のうち、八幡川左岸の観光ゾーン(2ha)の造成が完了した。完成記念の見学会(24日)

が開催され、「さんさん商店街」の店舗を中心に32店舗が入居し、29年3月のオープンを予定する。

◇南三陸町の10年間総合計画案がまとまった。それによると37年度の人口目標を、1万4千人から2割減の1万1600人に設定し、交流・定住人口拡大や南三陸ブランドの確立など、重点施策を実施するなどを盛り込んだ。

◆気仙沼市は中3まで通院費無料を、子育て支援として11月から実施する。

◆気仙沼市の小野寺さん(73)は遠洋マグロ船に通信長として2年間の航海へ、11月2日に出発する。「若者には負けられない」と古希を過ぎてもなお現役として活躍している。

◇南三陸町総合体育館で男子プロバスケットボールbjリーグ「仙台89FRS」の公式戦が4年連続で開催された。無料招待で約1,300人が集まった。プロの早さにまじか触れた。結果は、福島ファイヤーズに97-95の近差で勝利した。

◆気仙沼唐桑観光協会は、宿泊付のツアーを商品化し、民宿と連携し集客を担う。

◎県議選の気仙沼・本吉選挙区(定数3)の25日の投票結果

当 守屋守武(56) 無所属・新	13156票
当 島山和純(69) 自民・現⑥	7596票
当 境 恒春(36) 維新・現②	6551票
次点 山崎 哲(47) 新	3839票
齊藤巳寿也(50) 新	2374票

◇「みやぎ花のある町コンクール」において、南三陸町の町営栢沢復興住宅、平成の森仮設住宅団地自治会の2団体が入賞した。

◆気仙沼市の27年度上期のふるさと納税状況が発表され、件数では昨年の3倍と金額では2倍近くとなった。現在件数は3,696件と金額で4,856万円となり、市の貴重な財源としてだけでなく、物産品のPRにも有効となっている。全国自治体の「ふるさと納税」の競争は激化している。

◇南三陸町と兵庫県三田市の合同での炊き出し訓練が、24日南三陸消防署で開催された。三田市のコシヒカリ30kと特産の黒豆を「南三陸町婦人防火クラブ」と三田市の関係者で炊き出し訓練し、防災を通じた震災の風化防止と交流を深めた。

◇南三陸病院とケアセンターの建設にあたり、11月には落成式や見学会を予定し、12月14日の開業に向け着々と準備を進めている。

◇南三陸町は歌津の栢沢災害公営住宅の「カビ問題」で、被害が確認された6世帯に対して4ヵ月分の家賃を還付する事を決めた。6世帯で4ヵ月平均で16万3600円を11月中に入居者に還付する。

◇南三陸町では合併10周年にあたり、11月3日に300人が出席し記念式典を開催する。名誉町民として高橋長偉氏ほか8個人を表彰する。

◆気仙沼港のサンマ漁は不漁で水揚げも半減し、サイズも小さく価格も高騰し、加工業者は手が出ないと言う。この時期はキ100円以下ながら相場は200円を超えている。

◇気仙沼・南三陸のキノコ・山菜の生産者が、組織で安全な生産をと、24日16人が集まり連絡協議会を立ち上げた。

◇南三陸町の「高齢者スポーツ大会」が28日開催され、志津川・入谷・戸倉・歌津の会員が町内や仮設住宅から180人が集まり、再会を喜びあい楽しい時間を過ごした。

◇三陸沖のカツオ漁が10月に入っての低気圧の影響で、カツオの群れが見えなくなり昨年に続き1ヵ月も早く終漁となった。

◇女川原発事故を想定した「原子力防災訓練」が30日、原発被災が懸念される戸倉地区の住民300人が参加し、南三陸町の「避難計画」の策定後に初めての防災訓練が実施された。

南三陸町内の地域や個人の情報がありませんら、寄稿・町への要望など受け付け、広く情報を発信致します。  
TEL 0226 (46) 3069  
志津川広報センター 千葉まで